

1 月号
VOL. 482

土會奈良



SHIKAI

2015 NARA

表紙のこぼ

中米ペリーの掛けがえのないB級文化財



よく手入れされた建物の玄関周り

中米のユカタン半島の根元当たり、カリブ海に面したところにペリーという国がある。中米の国々の多くがスペイン領だったので、このあたりはたいていスペイン語が話されるけど、ペリーだけは英語が公用語。実は大航海時代、カリブ海を出入りするスペインの交易船を襲っていた英国の海賊の基地がペリーだったという。足の速い小型船でスペインの大型船を襲って金品を巻き上げて、サンゴ礁に囲まれて浅瀬の多いペリー海岸に逃げ込む。喫水の深いスペイン軍艦は追撃できない、ということらしい。独立は1981年とごく最近で、ペリーの人口は30万人。面積は日本の四国より少し大きいくらい。人種としてはメスティーソ（白人とインディオの混血）や黒人が多く、人々の顔を見る限り、英国の雰囲気はない。

この国で一番大きな町、と言っても人口は6万人ほどだが、ペリーシティに植民地時代に白人が建てた住宅がたくさん残っている。日本で言うと異人館という感じの下見板張りペンキ塗りの壁の2階建て、周囲にベランダをめぐらせたバンガロー形式のものも多い。高潮に備えて、床を高くし、玄関には階段があがる。入り口ホールは大きく、天井は高い。多くは個人住宅だが、大きいものはホテル、役所・会社の事務所として使われている。歴史建築とは言うものの古いもので100年くらいしか経っておらず、技術的に特にすごいということもない。レベルとしては絶対に世界遺産にはなりっこない「B級文化財」だが、建築家たちが市民を巻き込んだ運動にしたいと役所を巻き込み現在ナショナルトラスト法を準備中である。やはり郷土愛と深く結びついた動機だろう。

住民に白人はほとんどいないが、英国の影響は国の制度や人々の礼儀正しさ、そして嬉しいことに食べ物に残っている。古風な英国風のランチ定食や、ジョニークッキー、いろんなプディングを街の食堂で楽しめる。やはり文化は建物だけでは継承されない。その中で営まれていた生活や価値観を現在の生活に活かしてこそ胸を張って「引き継いでいます。」と言えるのだろう。

この国の一人当たりのGDPは1万ドルに届かず、日本の4分の1ほどの豊かさ。収入の多くを観光に頼っている。ペリーシティはカリブ海クルーズ船の寄港地であり、年間70万人が上陸して日帰り観光を楽しむ。多い日には1日12,000人もやってきて小さな港は大騒ぎになる。多くは郊外のマヤ遺跡やジャングル観光のバス旅行に参加する。旧市街は港から歩いていける距離なのに、街めぐりをする観光客はほとんどいない。観光客の流れを変えて旧市街に引き込み、観光を起爆剤にして再活性化が出来ないか、と目論みもある。現地の建築系学生の町並み見学会に参加してみたが解説を受けるとなかなか見どころも多く、半日は楽しめる。私の現地での仕事であるペリーシティ都市計画でももちろん、「文化財を活用した歩ける街」を提案している。

(記・阪本日出雄 国際開発コンサルタント(株)パデコ)

情報・広報委員会

委員長	松尾 憲治	
副委員長	田上 圭吾	折目 貴司
委員	乾井 哲	岩城由里子
	鵜山 治	大倉 克之
	小松原寛俊	崎山 泰正
	福西 保夫	福本 保治
	藤井 靖彦	宮浦 重彦

Contents

001

「新年のご挨拶」

004

「参与会」

年賀広告

005

「役員有志」

年賀広告

006

「ソラほんまちフェスタ2014」

新春特別寄稿

～桜井市本町通商店街～

007

「興福寺中金堂復元工事見学 レポート」

教育事業委員会

008

第6回「木が木でなくなる話

木粉とプラスチックとの複合材」

森林技術センター

010

「第16回奈良県景観調和デザイン賞

受賞作品決定」

012

「第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」

017

「親子まつり」

郡山支部

「堺・晴美台」および

「市内まち歩き見学会」レポート

018

「木のマンションリノベーション」

女性委員会

019

「木のパズル出前授業」

青年委員会

020

「あべのハルカス見学 レポート」

高田支部

021

「平成26年度奈良県被災建築物応急危険度

判定士養成講習会について」他

お知らせ



新年のご挨拶



年 頭 所 感

(一社)奈良県建築士会

会 長 瀧 上 徳 光

新年あけましておめでとうございます。

2020年の東京オリンピック開催が決定し、国としての明るい目標が生まれました。しかし、その中心的施設である新国立競技場建設計画に関しては一進一退を繰り返し、順調に工程が進んでいるとは言えない状況のようです。

アベノミクス成長戦略の成果として、景気回復が騒がれるなか、建設・建築の業務上では技術者等の人材不足、建築資材不足や価格高騰といった問題もあり、好景気の到来かと手放しで喜んでいられないのが現状です。この状況下で、これからの業務をどう改善していけば良いのかという大きな課題が立ちふさがっています。

昨今、東日本大震災に続き大型台風の襲来、洪水、火山

の噴火等々 未曾有の自然災害に見舞われ、防災・減災、そして復旧、復興等 取り組まなければならない課題も山積みです。私ども建築士会はこのような様々な課題と正面から向き合い、懸命に努力を続けています。

又、事業の面では第16回景観調和デザイン賞の審査、表彰の実施年です。単にデザインが優れているだけでなく、周りの修景に溶け込んだ調和のとれている建築を見出し表彰することにより建築の専門家のみならず、一般市民の方々にも調和のとれた街並みとは何かを考えてもらえるきっかけとなれば幸いです。

そして、歴史的建造物の保全・活用に携わる専門家として育成されたヘリテージマネージャーは研修の場から活動の場へと舞台を移し、講習内容はスキルアップのためのものとなっています。

本年も私たちは(一社)奈良県建築士会並びに建築業界の更なる発展を目指し、皆様と共に日々努力を重ねていきたいと思っています。

変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い致しまして年頭のご挨拶とさせていただきます。



平成27年

新年ごあいさつ

奈良県知事

荒 井 正 吾

奈良県建築士会会員の皆さま、明けましておめでとうございます。平成二十七年の年頭にあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

昨年秋には、第三十四回全国豊かな海づくり大会～やまと～が、天皇皇后両陛下御臨席のもと県南部で開催され、多くの方々に御参加いただきました。行催事の開催等にご協力いただき、改めて感謝申し上げます。

本年も、「地域の自立を図り、くらしやすい奈良を創る」ことを県政の目指すべき目標として、その実現に向け精一杯取り組んで参りたいと思います。

人口減少克服と地方創生の実現に向け、本県独自の取り組みを積極的に進めます。

特に宿泊産業については、県がイニシアティブをとり、意欲のある宿泊施設と連携・協働して活性化を図って参ります。ま

た、京奈和自動車道の整備や御所インターチェンジ周辺での産業集積地の形成など、企業が立地しやすい環境づくりを進めるとともに、女性や若者にも適したしごとの創出・就労支援を行います。

次に、県民の皆さまの健康長寿を願って昨年オープンした「まほろば健康パーク」の活用を促進するなど、着実に健康寿命を延ばすための施策を市町村等とともに進めて参ります。さらに、奈良県総合医療センターの移転整備や奈良県立医科大学附属病院E病棟、南和地域での南奈良総合医療センターの整備など、県民の皆さまに安心していただける地域医療体制づくりや県と市町村が連携して、駅や病院などの拠点を中心としたにぎわいのある住みよいまちづくりの取り組みを一層推進します。

紀伊半島大水害からの復旧については、道路や河川、砂防等の復旧工事が順調に進み、避難されていた方々全員の帰宅にも目途がつかしました。今後は、「復旧・復興」から「地域の振興」へとステージを移し、「交流」と「定住」を二本柱とした南部・東部地域のさらなる振興に、積極的に取り組んで参ります。

これからも、県民の皆さまのご意見やご提案に十分耳を傾け、皆さまとともに、より良い奈良の未来を築いて参りたいと考えています。

皆さまの一層のお力添えを心からお願い申し上げて、新年の挨拶といたします。



新年ご挨拶

奈良市長

仲川 げん

あけましておめでとうございます。

奈良県建築士会会員の皆さまにおかれましては、清々しい初春をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

世界遺産「古都奈良の文化財」等、奈良時代に代表される古代に光が当てられてまいりました本市の観光ですが、昨年は中世の茶人に因んだ「珠光茶会」の開催、また、大正から昭和初期にかけて賑わいを誇った「元林院」にスポットを当てた夜の観光の充実、さらに未来に向けて、東部地域を新たな観光地とするための取り組みやリニア新駅の本市への誘致活動等を行ったところです。

本年は、春日大社第六十次式年造替が始まる年であり、二十一年に一度行われるこの大事業は、国内外の観光客が高い関心を持っており、本市が国際的な観光都市として大きく飛躍する絶好の機会でもあります。

月ヶ瀬村、都祁村と合併し、まちとしての魅力の幅をさらに増して十周年となる記念すべき本年、「住みたい」「訪れたい」

とさせていただける「選ばれるまち」となることをめざし、昨年以上に魅力あるまちづくりに力を入れて取り組んでまいります。

魅力あるまちづくりの実現に向けては、建築物などの建造物と自然文化が調和した美しいまちなみであること、子育て世代など幅広い世代にとって優しい環境が揃っていること、安全で安心な環境が整っていることが求められております。

美しいまちなみの一つの取り組みとして、新たに「ならまちの発展」を進めています。急増する外国人観光客や起業を希望する方にとって、古い町家の保存や再活用は欠かすことのできない財産と考え、町家の内部・外部双方の改修に補助を行っております。

また、住みやすい優しい環境づくりのために、保育所誘致や認定こども園の開設を進めております。

さらに安全で安心できるまちであるために、奈良市民の皆さん、観光や仕事で訪れる人たちが不安なく過ごすことができる建物の耐震性を確保することが必要です。

住宅や不特定多数の人が利用される建物に対する耐震診断の実施に向けては、本市も引き続き支援を行ってまいります。

建築士の皆様方にも、建築物の設計・施工管理・耐震診断や耐震改修設計において、お持ちの専門分野の知識や技術を存分に発揮していただき、ご尽力いただけるようお願いいたします。

どうぞ、本年も本市の市政になお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆さまにとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年頭あいさつ

橿原市長

森下 豊

新年あけましておめでとうございます。一般社団法人奈良県建築士会の皆様におかれましては平素より橿原市政にご理解ご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、昨今の本格的な少子高齢化による社会経済状況の変化は、本市におきましても空き家の増加と言う形で大きな影響を与えております。中でも長期間にわたり適正な維持管理がなされないまま放置されている空き家は、防災・防犯・公衆衛生・景観など、生活環境の保全面から大きな社会問題となっています。総務省統計による本市の空き家割合は全戸数の15%となっており、今後ますます増加してい

くものと予想されます。橿原市では昨年、市内全域において老朽空き家実態調査を行い、現在、国で検討されている「空家等対策の推進に関する特別措置法」の動きを見据えた準備を進めているところです。

また平成25年11月に改正施行された「建築物の耐震改修の促進に関する法律」を受け、昨年より耐震診断及び耐震改修の促進に係る施策の基本となる「橿原市耐震改修促進計画」の改正を行っております。昨年度に実施された住宅・土地統計調査結果に基づき、住宅総数、未耐震住宅戸数を把握と分析、現状の耐震化率の算定、計画目標の設定及び目標達成の支援施策の作成を行い、災害に強い、安全・安心なまちづくりの推進に向けて、日常最も滞在時間の長い住宅、不特定多数の利用する特定建築物等で、耐震化されていない建築物について、地震に対する安全性の向上を計画的に促進して本市における地震災害による減災に努めて参ります。

本年も皆様にとって希望あふれる一年となりますよう心よりお祈り申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



年頭挨拶

生駒市長

山下 真

あけましておめでとうございます。旧年中は本市行政にご支援とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本市におきましては、これまで、徹底した行財政改革を行って財政の健全化に努めるとともに、事業の選択と集中によって様々な分野で新規事業を立ち上げてまいりました。

その結果、昨年実施されました「住みよさランキング」（東洋経済新報社）で関西4位・全国34位、「経営革新度調査」（日本経済新聞社）で関西3位・全国33位という高い評価をいただいております。

また、昨年3月には、国から、低炭素社会の実現に向け高い目標を掲げて先駆的な取組にチャレンジする「環境モデル都市」に、大都市近郊の住宅都市として全国で初めて選定されました。

このように本市の取組が高い評価をいただいていることを嬉しく思いつつも、今後もこれまで同様、決して惰性に陥ることなく、しっかりと気を引き締めていきたいと考えております。

戦国時代の武将である武田信玄の言葉に、「人は石垣、人は城」というものがあります。これは、人の力、個人の才能を十分に発揮できるような集団を作ることが大事だという意味とされていますが、この言葉を肝に銘じ、職員とともに一丸となって「関西一魅力的な住宅都市」を目指して頑張ってまいります。

本年6月には、これまで様々な紆余曲折がありました生駒市立病院が開院する予定です。引き続き皆様方のお力添えを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます、私の年頭の挨拶とさせていただきます。



新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部
まちづくり推進局建築課長

羽山 宏

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は土砂災害、火山噴火、台風、地震といった自然災害が非常に多い年となりました。政府の地震調査委員会が公表している「全国地震動予測地図」を見ると、奈良県内で30年以内に震度6弱以上の強い揺れが起こる可能性は低いとの予測がされており、奈良県でも大きな被害をもたらす地震がいつ発生してもおかしくない状況となっています。県では震災に備えたハード・ソフト両面の対策により、住宅・建築物の耐震化を進め、防災・減災のまちづくりをより一層進めて参りたいと考えています。

また、昨年は建築基準法及び建築士法の改正法が6月に公布されました。原則、1年以内の施行が予定されており、本年は本格施行の年となります。今回の改正内容は木造建築関連基準の見直し、構造計算適合性判定制度の見直し、建築物の設計・工事監理の業務の適正化及び建築主等への情報開示の充実など、多岐にわたる改正となっています。その中でも建築士法の改正については設計・工事監理受託契約に係る書面の相互交付、一括再委託の禁止、建築士免許証等の提示による情報開示の充実など、建築士や建築士事務所の業務運営に直接関わる部分での改正となっています。貴会の皆様におかれましては改正法の円滑な施行に向けてご協力頂きますようお願いいたします。

耐震対策、法律改正への対応、そのいずれもが安全・安心な建築物・まちづくりに繋がるものとなります。県では「日本一安全で安心して暮らせる奈良の実現」を目指しており、貴会の皆様と共に安全・安心な建築物・まちづくりを進め、その実現に向け努力して参る所存です。

最後になりましたが、奈良県建築士会のますますのご発展をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶と致します。

謹賀新年

(一社)奈良県建築士会参与会々員

(株) 浅沼組 (奈良営業所) 奈良市三条本町 4-32 中室ビル ☎0742-26-5225 大西宏次	大倭殖産(株) 奈良市藤ノ木台 1-2-15 ☎0742-43-9191 矢追盛賢	(株) 奥村組 (奈良支店) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-5001 朝日務	(株) 尾田組 奈良市高畑町738-2 ☎0742-26-6011 尾田芳信
(株)鍛冶田工務店 (奈良本社) 御所市 150-3 ☎0745-65-2131 柏原幸嗣	(株) 崎山組 橿原市南八木町 2-3-35 ☎0744-22-2353 寄山雅由	清水建設(株) (奈良営業所) 奈良市大宮町 7-1-33 奈良センタービル ☎0742-34-1510 前田秀樹	大日本土木(株) (奈良営業所) 奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル ☎0742-22-3071 高田正晃
(株)中和コンストラクション 桜井市桜井281-22 ☎0744-42-9313 大浦基嗣	(株) 中尾組 桜井市桜井553-1 ☎0744-42-3567 中尾隆成	中村建設(株) 奈良市三条大路 1-1-48 ☎0742-33-1001 中村光良	(株) 平成建設 橿原市曾我町352-4 ☎0744-22-3800 吉崎雅之
(株) 槇峯建設 高市郡高取町丹生谷1061 ☎0745-67-0084 槇峯豊美	松塚建設(株) 宇陀市榛原福地610-1 ☎0745-82-1371 松塚幾善	村本建設(株) 北葛城郡広陵町平尾11-1 ☎0745-55-1151 市岡武	(株) 森下組 吉野郡大淀町檜垣本1589 ☎0747-52-3535 森下秀城
(株) 山上組 奈良市鳥見町 1-1-3 ☎0742-44-0063 山上雄平			

(50音順)

明けましておめでとうございます

役員有志

井上建築工房アルス
大和郡山市北郡山町158-6
大和第3ビル204
0743-51-0286

井 上 慶 治

今 西 工 務 店
宇陀郡曽爾村大字掛254番地
0745-94-2588

今 西 清 秀

坂下建築設計事務所
天理市三島町167
0743-62-0306

坂 下 恭 浩

(株)城田建築設計事務所
奈良市佐紀町1番地
0742-33-5585

城 田 全 康

(株)中 和 設 計
橿原市今井町2-1-14
0744-25-5356

中 谷 芳 一

(株)榊 谷 設 計
奈良市西ノ京町101-1
0742-34-1461

中 元 綱 一

(株)福 本 設 計
奈良市大宮町6-4-21
0742-34-2800

西 峯 隆 司

(株)福 本 設 計
奈良市大宮町6-4-21
0742-34-2800

福 本 良 平

測 上 設 計
奈良市秋篠町765
0742-47-4100

測 上 徳 光

松 塚 建 設 (株)
宇陀市榛原福地610-1
0745-82-1371

松 塚 幾 善

富士技建(株)奈良桜井出張所
桜井市浅古903
0744-45-1105

松 尾 憲 治

(株)モ リ タ 設 計
桜井市大字上之宮412-1
0744-45-2314

森 田 恭 司



新春特別寄稿

「ソラほんまちフェスタ2014」

～桜井市本町通商店街～

「ソラほんまちフェスタ2014」が開催されました！～桜井市本町通商店街～

「ソラほんまちフェスタ2014」が平成26年11月22日(土)、桜井市の駅南側に位置する本町通商店街で開催され三千人を越える来場者がありました。この商店は竹之内街道から伊勢本街道の中間にあたり現在も伝統的な町屋が多く点在しています。しかしながら高齢化の進展と空店舗の増加、新しい住宅の建設など商店街としての機能や町並みの消失が大きな課題となっています。また、昭和の時代に設置されたアーケードの老朽化により、昨年より順次撤去、解体され地域の風景は大きく様変わりしています。地元住民や店主、事業者などが商店街の行く末やこの地の最大の資源である古い町屋の消滅に危機感を持ち、数年前に「本町通まちづくり協議会」を結成してまちづくりをすすめています。そのメンバーに加え、関係団体や住民等が実行委員会をつくり、今年「60年ぶりにソラ（空）が見えた本町通」をテーマに事業所・金融機関・行政などの有志約30の団体が屋台を出店されました。



同時開催として地域の人たちのコミュニティスペースである「たまり場」を活用し、おもちゃ病院を開設。モノを大事に使うというコンセプトのもと、壊れたおもちゃの修理を無料で行われていました。また地元の奈良情報商業高校も、かつて桜井商業であった時代に市民に親しまれていた「桜商ストア」を商店街内で復活させ、干物や海産物などを中心に生徒が販売し、多くの人で賑わっていました。



いまでも本町通では毎年7月に「七夕まつり」を開催してきましたが、今夏はアーケードの取り壊し工事期間になり中止に。その七夕まつりに代わるイベントとして今回のフェスタ実施が決まりました。また、この事業実施による効果測定として、商店街の歩行者等の通行量調査を実施しており、今後の商店街における基礎データを収集しているとのことでした。

また、イベント前日の21日(金)は桜井市商工会青年部が駅前にイルミネーション「桜井駅前エレクトリックツリー」の点灯式を開催し、来賓等の挨拶、そして点灯のあと、



育成幼稚園、関西中央高校、奈良情報商業高校が歌やバンド、吹奏楽の演奏で駅前をにぎやかに盛り上げていました。

翌日の22日(土)から24日(月)はさくらあと2014が行われ、桜井市立図書館、等彌神社との連携により、「古代へ誘う光の道プロジェクト事業」として、本町通から等彌神社までの約1kmをヒノキの曲輪を使った灯籠を住民主体で配置、点灯をおこない、図書館には子供たちの思いのこもったメッセージが書かれた手作り灯籠の点灯が行われました。

同時に等彌神社では献灯祭をはじめとする各種イベントや屋台が紅葉のライトアップとともに行われました。

このように桜井駅南側エリアで行われている個々の事業を点から線へ繋ぎ、そして面へと広げていく取り組みが続いています。



今後この商店街の行く先は、まちなみ景観に調和する店舗の修景と、住宅化したい店舗は看板を取り外した昔ながらの町家に戻すことで、伊勢本街道にふさわしい魅力ある商店街として甦らせ、次世代人口を増加させ、今まで来なかった観光客も含め集客増を目指すことを目標にしています。そのためには、現状の利用状況の把握と合わせ、空き店舗所有者のニーズ調査、まちなみ修景に対するニーズ調査など実施し、行政(桜井市)に景観コードづくりやまちなみ環境整備までつなげていく必要があると考えています。また、同時に、地域の特色を活かした継続可能なソフト事業と商店街整備を絡めることが重要であると協議会メンバーは話しています。(記・桜井市商工会 太田 勇)



教育事業委員会

興福寺中金堂復元工事見学レポート

正倉院展でにぎわう秋晴れの奈良公園で平成26年11月8日（土）に興福寺中金堂の復元工事現場を見学会を開催しました。



写真1：完成予想模型

瀧川社寺建築の国樹氏より、作事場において復元工事の概要説明を受けました。



写真2：国樹氏の説明

今回は、屋根瓦と軒先の組手を建設用の足場から真近に見学できる機会に恵まれました。

大斗、肘木、尾垂木、丸桁、そして手斧で仕上げられた部材等のダイナミックな木構造の細部がたいへん良くわかります。



写真3：組手

中金堂は、平安時代以降に7度の焼失と再建を繰り返して、図面や絵図等の資料が未発見のため、発掘調査による礎石から建物の高さ等を想定して、現存する天平期や奈良時代の寺院、そして唐招提寺等を参考に設計されました。

軒先は、水平に施工しますと地上から見た場合、隅木部分が垂れ下って見えるためにソリを設けています。そして屋根の四隅部分は軒先ラインより手前にせり出しているのがよくわかります、中国や韓国の寺院の屋根をみますとソリが大きく、瓦の役物の種類が少ないために、日本の寺院を見慣れた私たちにはアンバランスに感じます。

大陸で考案され古代日本に輸入された寺院建築は、日本人の美意識でより洗練された美しさを持つ屋根の形状に変化していきました。



写真4：軒先

奈良の街は、平安時代以降、政治の中心から、江戸時代は東海道という商業活動の大動脈から大きくはずれてしまったために、奇跡的に近代の乱開発や文化の破壊から守られてきました。そうした理由から、多くの国宝や古代の都市遺構が残っています。

こんなに美しい都市公園のある街は世界でも稀ではないでしょうか。

余談ですが、江戸時代は奈良晒（麻）で誂えた袴（かみしも）で登城するのが武士の最高のお洒落でした。

現在なら、イタリア製ビジネススーツで丸の内の官庁街を闊歩する高級官僚さんならに、大石内蔵助も松の廊下を奈良晒の袴で出仕していたなんて想像すると楽しいですね。

西暦2060年〇月〇日 リニアモーターカー、ロンドン発 イスタンブール経由奈良行の特急列車運行開始！

世界中からのお客様のために、素敵な街を作っていけたらいいなと境内を妄想しながら散策中。



写真5：全体写真

（記・教育事業委員会 木本之宏）



木が木でなくなる話

第6回「木粉とプラスチックとの複合材」

1. はじめに

第1話から3話までは、薬剤を木材中に含浸させることにより、木材の三大欠点「腐る、狂う、燃える」を解消する技術、第4話では熱処理による寸法安定化・高耐朽化技術、第5話では圧縮処理による軟質材の表面改質技術についてお話をしました。いずれも木材の形状をできるだけ残しつつ、その欠点を解消する技術でしたが、今回紹介するのは、木粉とポリプロピレンのような熱で軟化するプラスチックとの複合材で、どちらかといえばプラスチックに近い材料です。これは混練型木材・プラスチック複合材あるいは、それを略して混練型WPC（Wood Plastic Composite）といわれる材料で、図1に示しますように、外構用デッキ、建築物の外壁のほか、屋外用のテーブルなどとして、近年使われ始めた比較的新しい材料です。なお、原材料であるプラスチック、あるいは木粉の一部にリサイクル原料を使った場合、我が国ではそれを特に混練型木材・プラスチック再生複合材、あるいは混練型WPRC（Wood Plastic Recycled Composite）と呼んでいます。



図1 混練型WPCの用途の一例（WPRC普及部会HPより）



図2 混練型WPCの押出成形(左)と成形品の一例
(右、WPRC普及部会HPより)

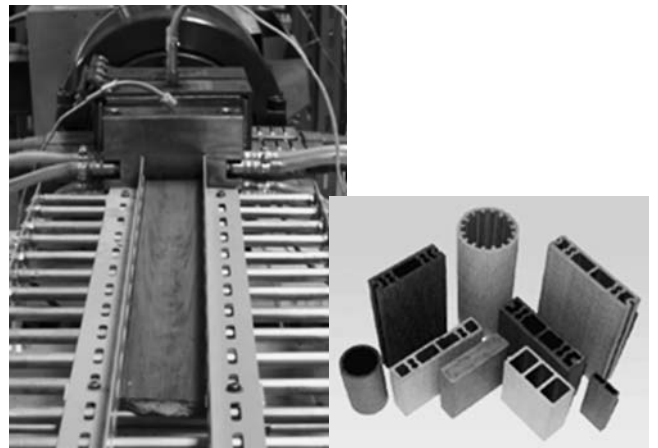
2. 混練型WPCの特徴

その用途からもお分かりだと思いますが、その特徴は、木材に比べると耐朽性や寸法安定性に優れており、塗装な

どのメンテナンスがほとんど不要なことです。

また、その製造方法にも特徴があります。図2の左の写真は、著者が香川県産業技術センターの協力の下、混練型WPCの押出成形実験を行っている様子です。この写真は、木粉とポリプロピレン等をあらかじめ混練して作ったペレットを、樹脂の熔融温度である170～180℃で溶かし、10～20MPaの圧力をかけて、断面形状が10×60mmのダイスから押し出しているところです。このように、混練型WPCは、プラスチックと同様、原料を流動させて成形できる材料で、ダイスを変えることにより、自由な形状の製品を作り出せます。流動成形できることが、木材とは異なる最大の特徴と言えます。我が国では図2の右の写真のように、軽量化と原材料の使用量の縮減を目的として、中空になっている製品がほとんどです。ところで、混練型WPCにおいても流動するのは、プラスチックであって、木粉はプラスチックの流れに沿っているだけですから、木粉率が高くなると成形性が悪くなるため、実用レベルでは木粉率は50～60%が限界のようです。また、これ以上に木粉率を高めると、成形品の耐朽性や寸法安定性が低下することが著者の研究でも明らかになっています。

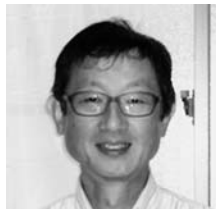
その他の特徴として、先にお話ししましたとおり、リサイクル原料や間伐材などの未利用材が使える、使用後の製品が再び原料として利用できるなどを挙げることができ、この点で混練型WPCは環境材料としても注目されています。



3. センターにおける混練型WPC研究

3.1 研究の動機

当センターにおいても混練型WPCに関する研究を数年前から始めました。プラスチックの専門家でもないのに、この分野に進出したのには理由があります。それは、混練



略歴 伊藤貴文（いとう たかふみ） 奈良県森林技術センター副所長

1956年京都市生まれ。1982年3月京都大学大学院農学研究科林産工学専攻修士課程修了。1983年4月奈良県林業試験場（現森林技術センター）勤務。1997年7月、京都大学より農学博士の学位授与。2013年より現職。専門分野は「木材の化学加工」、「木質バイオマスの利用」

賞 罰

- ・スギ樹皮を原料とする和紙製造技術によって、1994年5月、日本林業技術協会より第40回林業技術賞授与。
- ・水溶性薬剤による木材の化学修飾に関する研究（寸法安定化・高耐久化）によって、2002年1月、日本木材学会より第3回技術賞、同年4月、文部科学大臣賞（第22回科学技術振興功績者）
- ・吸湿性を抑えた不燃化技術によって、2010年5月日本木材加工技術協会より第55回加工技術賞授与。

型WPCの主原料であるプラスチックは親油性、木粉は親水性で、混練型WPCは相反する性質の原料を混ぜ合わせた材料であり、木粉の側からアプローチすることで物性がさらに改善できる可能性があると考えたからです。また、それと同時に、石油資源をできる限り再生可能な木質資源に置き換えることを目指し、混練型WPCの木質率を現状の50～60%から80%位にまで高めた「バイオマスプラスチック」を開発したいと思ったからです。

プラスチックとの親和性を高める方法として私達が提案したのが、木粉の過熱蒸気処理です。200℃以上の温度で加熱処理することで、木材は寸法安定性と耐朽性が著しく改善されることは第4話（本誌9月号）で紹介しましたが、その際、疎水化が進み、親油性材料となるのです。親和性が高まることで、木粉はプラスチックの流れに沿いやすくなり、流動性が改善され、その結果として木粉率が高められる可能性や、成形品の強度や寸法安定性、耐朽性などの物性の改善も期待できます。

3.2 竹材を使った混練型WPCの開発

ところで、私達は木粉に代わって、竹粉を用いる研究も行っており、現在ではむしろそれが私達の混練型WPC研究の主流となっています。竹材にはかつて、木舞竹（こまいだけ）や竹垣などの建築材や外構材のほか、日用品等として、幅広い用途がありましたが、現在ではほとんど使い道がありません。近年、放置竹林の面積が急増しており、景観上および国土保全の観点から、その整備が喫緊の課題とされています。竹は生長量が極めて多く、重要な資源であることから、その用途開発が急がれており、それが竹材利用の研究を始めた動機ですが、竹粉を混練型WPCの原料として用いた理由は、竹粉と木粉の構造的な違いにあります。両者を同じように粉碎したとき、図3のように見かけの密度に大きな差が生じました。それは木粉と竹粉の形状の違いに原因があります。竹は組織の半分以上が柔細胞でできており、その部分から得られる粉は粒状に、一方、維管束鞘にある繊維状組織の部分からは針状の粉が得られます。それに対して木材はほとんどが繊維状の組織で構成



図3 20gの竹粉（左）とスギ木粉（右）

されており、木粉はすべてが針状になります。粒状の粉の方が、プラスチックの流れに抵抗なく沿えるので、木粉を用いるよりも竹粉の方が流動性は高く、木粉よりも高充填が可能になると考えました。実際、研究室レベルでの予備実験では、竹粉率を85～90%にしても押出成形をすることができました。

具体的な製造方法は次のとおりです。竹チップを連続式の過熱蒸気処理装置で、収率が70～80%になるような条件で熱処理した後、0.3mmの篩を取り付けた粉砕機で砕き、得られた竹粉80%と、ポリプロピレン等の石油由来のプラスチック原料20%を練り合わせて樹脂ペレットを作り、それを用いて各種成形試験を行いました。その結果、押出成形よりもはるかに高い流動性が必要な射出成形法でも、問題なく成形ができました（図4左）。過熱蒸気処理をすることで、成形品の寸法安定性や耐朽・耐蟻性も格段に改善したほか、プラスチックと竹粉の親和性が高まった結果、曲げ剛性も無処理の竹粉を用いたときより60%向上するなど、期待どおりの成果を得ることができました。射出成型では押出成形ではできない三次元の成形が可能になり、また、優れた物性が得られたことで、従来の混練型WPCの用途のほか、現在プラスチックが使われている用途の多くを代替できる可能性も出てきました。

この技術を使って、射出成形した印肉ケース（図4右）が試験販売されています。さらに現在では、量産化を目指した日産1トン規模での研究を進めているところです。



図4 射出成型した竹バイオマスプラスチック

4. おわりに

今回は新しい複合材である混練型WPCについて紹介しました。さらに、木粉の代替として竹粉を用い、その充填率、流動性や成形品の物性を高めるための当センターの取り組みについても紹介しました。用途がほとんどない竹材を工業原料として利用する新しい試みということで、関連企業だけではなく、ユーザーや放置竹林の問題を抱えている行政機関など、多方面から注目をされているのは確かです。しかし、どのように竹材を集めるか、製造コストはどうかなど、検討すべき課題が山積しているのも事実です。



第16回奈良県景観調和デザイン賞 受賞作品決定



1	2
3	
4	
5	

1. 知事賞 **今井町の家**
 - 所在地 橿原市今井町
 - 施主 田原勝則 田原幸子
 - 設計者 横関正人+横関万貴子／
一級建築士事務所有限会社NEO GEO
 - 施工者 株式会社岩鶴工務店
2. 会長賞 **終の住処—奈良帝塚山の家—**
 - 所在地 奈良市帝塚山
 - 施主 藤岡 茂
 - 設計者 井上久実設計室
 - 施工者 西友建設株式会社
3. 奨励賞 **斑鳩の家**
 - 所在地 生駒郡斑鳩町
 - 施主 廣瀬智也
 - 設計者 中山建築設計事務所
 - 施工者 空工舎
4. 奨励賞 **十津川村復興公営住宅**
 - 所在地 吉野郡十津川村大字谷瀬地内・大字猿谷地内
 - 施主 十津川村
 - 設計者 株式会社アルセッド建築研究所
 - 施工者 泉谷工務店 亀本工務店 田垣建築 辻建築
三共工務店 西建築 柳瀬工務店
5. 審査委員長賞 **御所の古民家(減築・改修)**
 - 所在地 御所市
 - 施主 個人
 - 設計者 株式会社貴志環境企画室
 - 施工者 唐内工務店

第16回 奈良県環境調和デザイン賞 審査評

(審査委員長 吉村篤一)

★総評

今回も各分野から多くの応募があり、まず第1次審査として写真と書類による審査を行ったが、前回までと比べて公共部門のレベルが低かったことがあげられる。2次の現地審査に残ったのは2作品のみであり、いずれも現地審査での評価も低かった。一般建築も2作品で戸建て住宅が大半であった。私たちを取りまく空間の多くは公共建築と一般建築により成り立っているから、こんなことでは先が思いやられる。このことは公共建築等の設計者選定の制度に問題があることもその一因となっているのではないか。結果的には受賞作品は全て戸建住宅（群）であったことはやや残念である。

本賞は応募された作品と周辺環境との関係性を問いつつ審査するものと考えているが、新築、改修に関わらずその建築（構築物）の質の高いことが必要条件であろう。いくら規制通りに勾配屋根で瓦葺きであっても美しくなければ意味がない。奈良はいうまでもなく古社寺や遺跡と、緑深い山々に囲まれた自然環境と、それらに抱かれた町が程良く点在しているという一つの秩序があるのではないかと思う。また、歴史的建築は必ずある秩序の下に建てられているし、古い集落もある秩序に基づいて成り立っているといえる。けれども現代都市はそういった秩序が欠落しているのではないだろうか。

このように考えてくると、それぞれの地域にはその地域特有の秩序があるはずであり、その秩序を乱さないような建築（構築物）をつくることが大切なのである。形にとられる必要はない、その地域の秩序を乱さない配慮が必要なのである。

■今井町の家 —知事賞—

重要伝建地区にある約200年前の町家の改修である。通りに面した部分はそのまま、内部空間は従来からの町家の空間的特徴を適度に取りながら、現代のライフスタイルに適合させモダンさも兼ね備えている。また耐震補強も格子壁を適切に配置して室内の閉鎖感をなくしており、内部空間全体のデザインにも破たんがない。このことは単にファサードを凍結保存するのではなく、時代の要求により内部を現代の使用に耐えるよう改修し、生活を続けながら町並みを守るという生きた保存としての優れた例である。

■終の住処 —会長賞—

40年前に開発された地域が住民の高齢化と共に建て替えの進むなかで、一人暮らしの高齢者のために建て替えた住まいである。町に対して閉鎖的ではなく、かといってオープンすぎるのもよくない。適度なプライバシーがありながら町の人たちとも緩やかなつながりを保てるよう内外空間が巧みに構成されている。庭の南側にある木立は居間からの視線を和らげ、カーポートから親しい人なら入って来れるような配慮もある。また片流れ屋根も周辺の環境の中で違和感なく存在し、現代の住まいとしての主張もある秀作である。

■斑鳩の家 —奨励賞—

なだらかな傾斜のある広々とした見晴らしの良い地域に建っており、前二者とは全く違った周辺環境で、遠くから見えてくる方形の屋根と壁の構成はシンプルで印象的である。軒の出が深く壁のプロポーションも良い。近づくとも家の周りには隣接した家がないので四面の壁がすべて見え、各面の窓の開け方や樋の位置、生活上必要な裏廻りの処理等が気になってくる。けれども新築住宅として斑鳩という地域にすくくと建っていて、この地域の秩序を乱していないところが優れている。

■十津川村復興公営住宅 —奨励賞—

3年前の台風被災地に建てられた木造平屋建ての公営住宅群である。設計をするにあたり、住民に対するヒアリングや地元の大工さんとのワークショップ、民家調査等を経てできたものであり、「十津川の住まいづくりの25の手法」を考案し、それに従って建設されたという。このような努力が実ってこそできたものとして評価できる。既存の地形を壊さず里道や樹木も保全できているので、時間が経って現在の平坦な土の部分が馴じんでくればその良さが出てくるだろう。

■御所の古民家 —審査委員長賞—

今世紀は価値のある古民家や町家等を保存することの方が、新しい建築を新築することより価値があることを、市民すべてが認識しなければならない時代であると思う。この古民家はかつて増築された部分を解体して木塀を新設しただけであるが、既存のクスノキの大木や立派な母屋が保存され、隣接する寺院や近隣の民家と一体になって美しい景観が保全されたことは大変意義深いことである。このような作品を顕彰することは、これからますます重要になってくるだろう。



第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」レポート

第57回建築士会全国大会が、10月24日(金)ビックパレット福島にて開催されました。奈良県建築士会より41名の参加があり、「交流セッション：防災・減災まちづくり」・「ヘリテージマネージャー大会」・「大会式典」・「記念講演会」等に参加しました。また、翌日25日は、10名が地域交流見学会（エクスカーション）に参加しました。



第2回全国ヘリテージマネージャー大会参加報告

(記・奈良支部 高安秀和)

第2回全国ヘリテージマネージャー（以下HM）大会は、ビックパレット4階プレゼンテーションルームにて約150名が参加し満席の中、協議会運営委員長・工学院大学・後藤治氏の司会で開催された。後藤委員長は、現在43都府県建築士会で養成講座が開催され盛況であることと大会の盛況を祝われた。

協議会副会長・塩見氏からは、建築学会作成の歴史的建造物の分布データーを今後は活用したいがセキュリティやアクセスの共有問題があると紹介があった。

その後各地からの以下の事例報告が行われた。



① 福島県白河市

「歴史的建造物・東日本大震災その後」と題し白河市の歴まち法に基づく取り組み、歴史的建造物の被害と対応の説明があった。

白河市では、平成23年2月23日に歴まち法認定を受け蔵の保存整備を行っている。士会とNPOが共同して奥州街道沿いの建造物のファサードを基に景観まちづくり協定制定作成。蔵の調査で33棟中8割が奥州街道沿い。

平成23年3月11日に被災。工事費1／2（300万円限度）で蔵を壊さないようにする取り組みが続いている。現在37棟中16棟の修景が進んでいる。

平成24、25としてきたがナマコ壁、赤瓦において瓦窯元が少ないこと竹小舞が入手困難なこと等問題があった。

平成26も修景継続。蔵ウオークを年1回開催。蔵の所有者が蔵の重要性をに再認識するきっかけとなっている（後藤氏意見）。

歴まち法は景観を良くするものだが被災時にも役立つ。

② 茨城県真壁地区

真壁地区は、平成22年6月29日に伝統建造物保存地区に指定。御影石の石蔵が特徴。104棟の文化財がある。

平成23年3月11日に東日本大震災に被災。市から建築士会に要望があり耐震診断2000件。2棟倒壊うち1棟は修理を断念。市と国から9割補助。伝建地区外の登録文化財の建築地区で75%が補助がつくようになった。

石蔵は、腐朽がおおく追加工事ある。4棟の事例紹介。特にN邸門は、垂木に墨書文字（文政一七年）があり、天保8年より古い建物は発見されていなかったのが歴史的発見。補助金制度が変わり、腐っているところは震災で出ないので一般修理（上限8割）で直すことになった（後藤氏意見）。

災害復旧を利用し重伝建が復旧されている。

③ 群馬県桐生市 桐生新町

平成24年7月9日に伝建地区選定。昭和30年代のもので約50年経過している。震災で約8割が被災。登録建造物では1軒で屋根瓦、外壁の落下があった。

復旧補助は申込が必要なので申込期間に不安があった。伝建地区指定までは仮復旧し指定後、本復旧した（後藤氏意見）。

県3／4補助している。桐生市独自の補助。少額だが応急処理できることが有効である。

④ 宮城県 大竹氏

動産の文化財において津波による塩分除去に費用がかかり震災時、建造物文化財の修理費が見送られた。また津波被害を受ける恐れのある場所では建築物が建てられないので修復等できない問題がある。

宮城県では、大工塾を行い中村昌夫の講演会等を行っている。国交省や経産省補助金の積極的活用を図っている。

⑤ 兵庫県 沢田氏

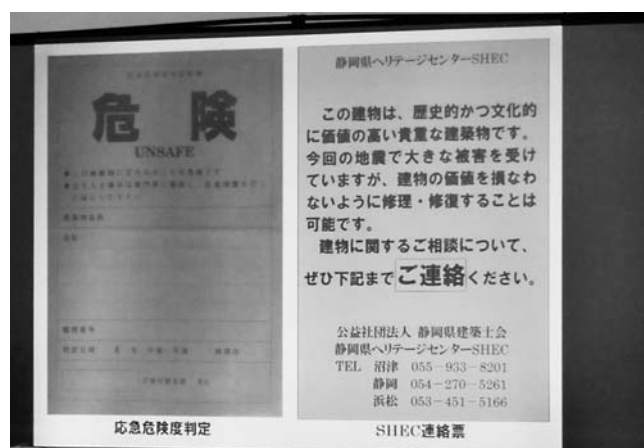
阪神大震災から来年で20年。震災時は、未指定の建造物の多く、全壊の85%、中破の50%が撤去された。

歴史的建造物（建築学会調査）に500万円上限で1／2の補助が行われ法的根拠の無い建造物にも補助された。登録文化財は通常時に補助が無いが、災害時には補助（復興基金）があることを所有者にも知って欲しい。6ヶ月以内に所有者等に働きかけないと公費解体され保存できなくなる。専門家が何ができるかのマニュアルが必要。

⑥ 静岡県 塩見氏

静岡県ヘリテージセンター：SHECを設置。行政と協議会を設置し応急危険度判定時に補修可と記載した青紙をはって良いようになった。SHECは40名で周知、認知、自己研鑽を行う。土会の112名がHMで増加中。

県下分布は均等。広域連携、行政の縦割り連携、県市町村連携を行う。職人との連携協定書を組合と土会で検討中（後藤）。応急危険度判定との連携が多い。



質疑応答

1. 群馬県からHMは士会員の何割がよい質問があり、兵庫県から、応募が減るとステップアップしている。兵庫は400名。今回30名募集で27名。平均年齢39.5歳。

会員2000名の2割。増えるより若い世代が残って行くことが必要。2、3年に1度の講習とすると回答があった。

2. 東京から応急時に試算したがスムーズに行かなかった。一般的な修復費は？ データベースはあるかと質問があり、福島から、既に調査していたので部位別に決められていた。約10日位で2億円程度と試算。市は1／2補助すると決定し結局1億円出すことになった。後藤氏から、文化財として見積だと高額になる。荒壁を粉殻利用すると費用軽減できる。代替利用は日頃職人とのネットワークで判ってくるので工事施工者とのネットワークが必要。土会は施工者も会員なのでできると思うと回答があった。後藤氏より日本伝統文化建造物研究会で単価があると回答があった。

各発表者の追加発表 ①はなし。

②補助は行政と関わりあり。施主の立場で行政は考えていない。行政へ働きかけてよいまちづくりをする必要あり。

③HMは他府県との交流において制度を使えないかを考えるように。桐生市はファッションタウンと言っており蔵の見学会が増えた。

④震災復興の動き。普段の連携を地域のまちづくりに。経産省の補助が使える。職人組合との連携を図っていく。

⑤2001年から講習会を開催。10年前からメリットはないと開き直っている。10～20年後のメリットを目標に5、60代の方は捨て石になってくれと言っている。大事なものは、

1. 人（専門家・スキルアップ）、
2. 活動ネットワーク、
3. リスト整備（日本建築学会のデータベースの共有拡大を図る）である。

⑥土会でアンケート。HMを知らない会員が1／2。HMを続けたい人が6割。歴史的建造物への興味が潜在的に多い。人を広げていくこととどこまでボランティアでやれるかの工夫が課題。以上が全国大会の報告です。

奈良県建築士会では、平成22～25年の4年間に講習会を実施し103名のHMを養成しました。今年度も文化庁補助を受けスキルアップ講習会を開催し36名が9月～3月まで受講しているところ です。

県下の各地域内の文化価値のある建造物を掘り起こし、当該建造物の保全活用策の提案し、歴史的建造物の保全活用の促進による地域の伝統文化を活かした住まいまちづくり地域の活性化事業に取り組んでいきたいと思っております。

平成26年度 建設事業関係功労等 国土交通大臣表彰

地域社会の皆様と共に～

橿原支部 中上博功



新年明けましておめでとうございます。

この度平成26年度、建設事業関係功労等、国土交通大臣表彰を賜りましたことは、長年建築設計業務に携わって来た一人として、身に余る栄誉であり、大変光栄に存じております。ご推薦を頂きました奈良県をはじめ(公社)日本建築士会連合会、(一社)奈良県建築士会、並びに関係者に心から感謝申し上げます。

振り返りますと私は昭和39年に学校を卒業し、現建築設計会社に入社して50年に成ります。当時は高度経済成長の初期の頃でありました。先輩の手厚い指導のもと建築技術の習得に明け暮れた毎日でありました。ともすれば挫折しそうにもなった時、初めて任された仕事は生まれ育った地元の小学校の設計でありました。工事の完成時には、苦勞に優る充実感と使命感、そして誇り、この体験が無かったならば今の職業を続けていなかったかも知れません。ものづくりの感動を味わい喜びを感じた時期でもありました。

建築士会との関わりに付いて少しふれさせていただきます。同年に準会員としてお世話に成り、何も分からない私に対し先輩会員の暖かい御指導のもと青年部会所属で初まり色々社会勉強をさせていただきました。その後教育指導委員会委員長、又長きにわたり理事、監事の役職を頂き感謝しております。

思い出深い体験として奈良県の補助事業でもある景観調和デザイン賞実行委員長を受けた時でした。大先輩である

各界の審査員の先生方との会話の中で「建築と都市景観」に対する考え方も感じ方も人それぞれだなーと、つくづく実感しました。次に平成7年の阪神・淡路大震災発生後、被災地を目の当りにし、今のような復旧はとても出来るとは思いませんでした。まだ、余震も残る中、住民の要望で住まいの安全点検に訪問させて頂き天井裏や小屋裏を調査し安心して住んで下さいと話した時の笑顔がまぶたに浮びます。協力をベースにした地域社会を築くことの大切さを学びました。又平成10年の第41回日本建築士会全国大会「奈良大会」テーマ：古都奈良で21世紀の夢語ろう～歴史のまちから未来へのメッセージ～で会員初め関係のスタッフがー丸と成って前年度から準備を進め大成功に盛り上った大会で全国に奈良県建築士会の存在感を示したこと等、色々とは楽しい思い出として残っています。これも長きにわたって建築関係に携わってきた多くの先人・関係者の努力の賜ものであります。

今や都市化が進み、地球温暖化・風土・まちなみの消失が進んでいます。地球の環境と風土の継承に心がけ「人と自然と文明が共存出来るまち作り」を目指して地域の皆様との関係を更に深めて行く所存でございます。

最後になりましたが、関係各位の変わらぬご指導、ご鞭撻を心からお願い申し上げます。御礼の言葉とさせていただきます。誠に有難うございました。



中上さんにはH26福島大会にも参加いただきました。

平成26年度 連合会会長表彰

—第57回建築士会全国大会福島大会にて—



写真左：武田さん 写真右：上村さん

■奈良支部 上村幸弘さんより

この度、第57回建築士会全国大会、福島大会において連合会会長表彰を受けることとなり、本年10月24日に福島大会に参加し五條支部の方と共に受賞してまいりました。ここに奈良県建築士会、及び奈良支部の方々のご支援に感謝申し上げます。

士会の仕事は大したことは何もしていませんが、28歳ぐらいの時に、建築士の資格もないままに準会員として入会させて頂きました。時が過ぎ気が付けば40数年会員としてお世話になってきました。

その間に奈良支部が10番目の支部として立上り、総務委員、会計等のお手伝いをしてまいりました。

総務委員の時は、年4回の「支部便り」の作成を5年余り続け、今でもその当時のことが思い浮かび、時々読み返しています。

福島県へは一度は行きたいと思っていました。

せっかく行った福島県なので、郡山駅から高速バスに乗り岩木市まで行き、そこからタクシーの運転手にガイドをもらい大震災の復興の様子を見てきました。

震災の面影はほとんど無いが海岸沿いの防潮堤の工事(延長)は凄かった。

これからも奈良県建築士会のますますの発展をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。有難うございました。

■五條支部 武田正文さんより

古稀と言われて「えー誰のこと」と思わず問い返してしまいましたが、私もそんなことをいわれる歳になったのだなあと改めて思っております。昔は70歳まで生きれば稀な長生き者といわれ、それが古稀の稀という字のゆえんと聞きました。今は平均寿命も延びて70歳なんてまだ人生の通り道だと思っておりますが、ちょうど70歳の誕生日がこの大会の初日と重なり、特にそんなことを考えてしまいました。士会活動もすべて中途半端に送ってきた私にこんな賞までいただいて、本当によいのかなあと思っています。まだまだ、体の続くかぎり、建築設計の仕事は続けていきたいと思っておりますので、建築士会の皆様、これからもおつきあいのほど、よろしくお願いいたします。今回の全国大会は平成23年の東日本大震災と原発事故に見舞われた福島で行われ、復興となかにある福島県にとって、全国のかたがたに復興の現状を再認識してもらうまたとない機会であり、我々参加者にとっても大変よい機会を設けていただいたと思っております。大会会場となった「ビックパレットふくしま」の多目的展示ホール（B、C）は3千人余が収容出来、その他の諸施設を含め相当大規模な施設でした。奈良県にも是非そのような大規模な収容施設がほしいですね。大会テーマの「ならぬものはならぬものです」は我々建築士にとって日頃なかなかいえませんが、今後はますますそう言える建築士であらねばとつくづく思った次第です。私たち五條支部の参加者は、大会の翌日、レンタカーを借りて、大内宿から鶴ヶ城の見学に行きました。ちょうど週末であったからかもしれませんが、多くの観光客が訪れ、たいへん賑わっていました。福島のそばや地酒をいただき、土産も買って（微々たる復興への協力？）福島の秋を十分に堪能させていただきました。一日も早く、復興が成し遂げられ、活力を取り戻されることを願っております。最後になりましたが、この度の受賞に際し、お世話をくださいました会員の方々、また、事務局の方々に厚く御礼申し上げます。

第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」 地域実践活動発表会 レポート

平成26年10月23日(木)～25日(土)、第57回建築士会全国大会「ふくしま大会」が開催されました。メインテーマに、建築士の決断「ならぬことはならぬものです」ふくしまで語ろう 建築・絆・再生と掲げた、全国各地より多数の建築士により盛大に開催されました。奈良県からも多数の青年建築士が参加いたしました。

大会を通して、全国の建築士会の方々と交流を持つことができたと共に、多様な活動をされている事に感銘を受けました。一連の大会イベントの中で、青年委員会の関わりが深い事業を紹介したいと思います。

第5回 全国建築士フォーラム in ふくしま 「あつまれ青年建築士！ 地域実践活動発表会～見える・魅せる建築士会～」



全国の建築士会青年委員による多様な活動の中から、全国7ブロックより選出された事例が紹介されました。各ブロックの後に、座談会形式で発表者と参加者が語らいながら研鑽し、活動のさらなる発展、波及、相互理解などの可能性を探る参加型の発表会となりました。その中で、奈良県建築士会としても多岐多様に渡る活動を行っています、全国の他ブロックにおいては、様々な角度から建築士の可能性を追求した活動が報告されていました。



その中で、近畿ブロックからの地域実践活動である「東山区空家対策プロジェクト」(京都府建築士会青年部会)が、最優秀となり連合会長賞を受賞し、同ブロックとしての喜びを感じることが出来たと共に、奈良県建築士会としても、更なる発展ある事業を行っていかねばいけないという思いを受けました。



また、地域実践活動発表会の後には懇親会が行われ、各都道府県の枠を超えた建築士会の仲間とつながりを持つことが出来ました。その場においては、他の地域の建築士会の方とも本発表会に関する議論は元より、自らの地域での活動を対外的にPRを行うことも出来ました。



本大会を通して、全国の建築士会においてはそれぞれの地域性・独自性を活かした活動をされている事を実感すると共に、直接的な講義・質疑・対談することにより、活動内容を身近に感じる事ができ、素晴らしい大会となりました。

(記・青年委員会 向出篤史)



郡山支部 「親子まつり」

恒例の親子まつりが本年も11月3日に開催されました。今年で40回を迎え伝統的行事に我が支部も創意工夫を重ね、「模型づくり」・「すまいの相談」・「ストローとんぼづくり」の三つの企画で参加しました。

「模型づくり」は支部の町家調査活動に併せて町並みをイメージしての紙模型作りを企画し、子供達により関心を持ってもらう為4パターンのものを準備しました。

机・イス、材料をセットし朝9時の花火と共に開始です。



例年私共のブースを楽しみにして来てくれるファンもいるようで支部会員の楽しみの1日でもあり地域の方に貢献出来る機会でもあります。

子供達を見ていると性格が、わかり易く出てきます説明も聞かずに創る子、生真面目な子、ボンドをマヨネーズの様に出す子等々面白い時間が流れていきます。

遊びコーナーとして紙とストローを利用した竹とんぼ作りには子供そっちのけで、お父さんが真剣に創っている様子もありました。
(記・郡山支部 和田 修)



「堺・晴美台」および「市内まち歩き見学会」

平成26年11月24日、郡山支部10名は“堺・晴美台「ゼロ・エネルギー・タウン」”の取組みを行っている大和ハウス工業の現場視察及び旧家が残る「堺の町並み」を見学しました。最初に訪れた晴美台では「SMA × ECO TOWN 晴美台」の取組みについて、大和ハウス工業の協賛企画グループ長より説明いただきました。

「晴美台」では、一つにスマートハウス、二つ目にライフスタイルを掲げスマートハウスには、太陽光発電・燃料電池・HEMS・リチウムイオン蓄電池・高断熱高気密・パッシブデザインを、ライフスタイルには、電気自動車カーシェアリング・電気をつくる・エネルギーの節約・エネルギーを賢く使用する等、エコを最大限利用した街並みとなっていました。

「街区デザイン」は自然の風の流れを考慮した道路計画と施設配置。そして美観と緑被による温度上昇抑制に配慮した擁壁壁面緑化が施され、災害時の安全性に配慮し電線を地中化していました。また、管理組合は景観の維持を保つために植栽の管理及び剪定、防犯のための街灯・防災時のための給水及び仮設便所設置（普段は休憩するための椅子）・カーシェアリングの運営を行い少しでも排ガスが出さないよう考慮されていました。これらを全て管理組合（居住者には月額管理費を収めていただく）が運営されています。

「憩いの広場」の太陽光で発電された電力を直流で共有の大型リチウムイオン蓄電池に送電し、共用施設に電気を送電し残りを売電することにより、管理組合を法人化とし運営を行っていくシステムに作り上げていました。



「晴美台」は開発面積：1.68ha（5,082坪）、区画数：65区画、宅地面積：平均53坪の規模は安定したエコを目指すには少し区画数が少なく、協賛企画グループ長は100区画程度あれば理想的な「ゼロ・エネルギー・タウン」が可能であることを強調されていました。

私たちの住んでいるまちにはないものを見て、そして聞かせて頂き、街の取り組み方を教えられました。

住んで安心を抱けるまちの取り組み方を参考に、少しでもわが町で出来るところがあれば変えていこうという気持ちを持つようになりました。

「堺市内まち歩き」では、案内をかって来てくださったボランティアガイドの志賀さんに案内をしていただきました。堺役所展望ロビー～妙國寺～本願寺堺別院～山口家住宅～鉄砲鍛冶屋敷（満員の為外観のみ）～清学院～堺伝統産業会館をきめ細かにかつ判りやすく説明をしていただき堺市の歴史の一部の案内でしたが堺の町がよく理解できたように思います。

(記・郡山支部 榎谷 進)



女性委員会

木のマンションリノベーション

くらしとすまいをみつめる

“無垢材を使ったマンションリフォームの設計手法”

近畿建築士会協議会女性部会主催セミナー

11月1日、無垢材を使ったマンションリフォームの設計手法についてのセミナーが開催されました。女性部会主催の会員向けのセミナーでしたので、参加者50名のうちの9割が女性建築士でした。



講師は、関西関東一円で活躍されている西宮の設計事務所マスタープランナー級建築士事務所の小谷和也さんです。小谷さんのところでは、床に吉野杉の厚板を使ったマンションリノベーションを数多く手掛けておられます。動線の取り方や風の道のつくり方、限られた空間の中での収納計画の工夫など、マンションリフォームにおける計画のポイントについて事例を紹介してくださいました。また、マンションでは結露やカビの問題が多く発生しており、RC造の断熱のことや結露を防止するための改修技術についても教えていただきました。



それから、マンションで床に無垢材を張る時に細心の注意をしなければならないのが遮音のことです。せっかく無垢の木を張って温かみのある木の住まいにリフォームするのに、下階の住人から「以前よりうるさくなった」と苦情が出て精神的苦痛を抱えてトラブルになる事例が、無垢の木の床の人気とともに増えてきているそうです。マンションでは遮音に関する管理規約があるので、問題が起きている案件でも遮音レベルを満たす配慮をして施工されています。よくある施工方法として①既存の遮音フローリングの上に無垢板を張ったり、わざわざ遮音フローリングを下地に使ったり、②無垢板用の遮音下地材を使っているものもあるとのことでした。①の方法は理論的には良さそうに思いますが、実際は遮音が0になり最悪の結果になるので「絶対にしてはならない施工方法」で、②の無垢板遮音対応下地材（シート材や下地の版のようなもの）は、遮音効果がないものが数多く出回っており、カタログのLL値は全くあてにならないとのこと。（LL値はメーカーの自主検査数値。2008年以降はΔLL値に移行しており、こちらの表記は信用できます。LL値の性能は高いのにΔLL値が低いケースがあるということです。）小谷さんは数々の遮音商品について正規のJIS検査をされており、多くの商品の効果の無さと実際の音も聞かせてくださいました。知れば知るほど怖くなるような話です。では、マンションの床に無垢板を張りたいときにどうすれば良いかと言うと、結果的には遮音用の2重床方式しかなく、しかもメーカーによっても遮音性能にはかなりの差があるとのこと。一般的なマンションの管理規約（遮音条件）であるLL45をあらゆる条件で満たす事の出来るものは、現状ではタケムラ工業の商品だけとのことでした。

セミナー終了後、「マンションリフォームで無垢板の床を希望されるケースが増えてきているなか、知らない事の怖さを感じた」という感想を多くの方からお聞きしました。大変有意義なセミナーでした。

（記・生駒支部 岩城由里子）



青年委員会 木のパズル出前授業

11月2日(日) 大和郡山市のカトリック幼稚園さんにおいて「木のパズル出前授業」が開催されました。



3月にイオンモールで開催された「森と木と家のフェスタ」での建築士会青年委員会の活動から興味を持っていた方のご紹介で、幼稚園で開催されるバザーへの出展オファーをしてくださり、木のパズル等の出前授業としては初めての一般の方からのオファーをいただく形となりました。



今回は、これまで以上に木と触れ合っただけのように、木のパズルの体験・販売に加えて、カンナくずで作ったひのきのおふろも用意しました。

当日は朝から来園された沢山の親子連れのみなさんに、パズルに悩んだり、木くずを体いっぱい感じて、木の香りや感触を体感してもらいました。



親御さんにも、興味を持っていただく為に、パネルの展示やパンフレットの配布も併せておこない、多くの方に建築士会を知っていただけたと思います。

一般の方からのオファーをいただけたということで、日頃のPR活動の成果を実感することが出来ました。

今後の課題としては、建築士会の存在を知って頂く事はもちろんですが、我々建築士会の活動を、職能を活かした地域貢献活動へと発展していけるように、わたしたち建築士の職能や役割を楽しく理解していただくための、もう一歩踏み込んだPR方法を考えていければと思います。



(記・青年委員会 郡山支部 東川正樹)



高田支部 あべのハルカス見学 レポート



開催日時 平成26年11月11日(火)
14:00~16:30
開催場所 あべのハルカス
参加者 20名

寒さが一段と増した11月、「あべのハルカス見学会」を高田支部にて開催させて頂きました。

- ・300m立体都市のシンボル
- ・地域と親和する外装モデル

をコンセプトとした日本最高、最先端のビルの意匠、構造及び設備についてお話を頂き、実際に普段入ることの出来ないフロアを見学しました。



当日は、まず会議室にて近畿日本鉄道(株)あべのハルカス事業本部技術部長 安東隆昭様よりプロモーションビデオ、パワーポイントを使用しデザインから耐震性、施工に関する説明を頂きました。

その後、地下5階の設備フロアへ移動し、受変電設備、発電設備等、実際の設備を見学しました。超高層ならではの設備、複雑な配管を目の当たりにすると、施工の大変さを改めて感じます。



地下5階の説明



ガスエンジン発電ユニット



消防設備



天井配管

地下5階の奥にはレストランの厨房で発生した生ごみから(3~5t/日)メタンガスを回収し発電や熱源に使用する装置があります。環境に配慮したハルカスの特徴的な設備です。発電した電気は全て内部で使用されます。



地下5階から15階(外観でも特徴的なプレス階)へ移動し空調設備、非常電源装置を見学しました。屋上庭園のため屋上に設置できない室外機の設置の工夫が見られました。グレーチングの不安定な足場が裏方を感じさせます。



勉強会後展望台にて各々見学をし、懇親会にて和やかな意見交換を行い見学会は終了しました。



地上300m(地上60階、地下5階)、212000㎡、総重量285000トン、総工費1200億円、すべてが桁違いの「あべのハルカス」普段見学会は行われておらず、大変貴重な会となりました。準備、調整をされていた高田支部の方に改めて御礼申し上げます。
(記・高田支部 谷 幸治)



お知らせ

Information

●独立行政法人 住宅金融支援機構の技術基準(省エネルギー)改正に伴う講習会の開催のお知らせ

国の住宅性能表示制度が改正されたことに伴い、住宅金融支援機構においてもフラット35S〔優良な住宅基準(省エネルギー性)、賃貸住宅(省エネ住宅)〕の技術基準等が改正(H27.4.1から適用)され、設計段階で性能基準に基づく計算方法により技術基準に適合している省エネルギー性能が求められることとなりました。

今回、(一財)なら建築住宅センターにおいて改正された技術基準及び計算方法について講習会を下記のとおり開催いたしますので、ご参加くださいますようご案内申し上げます。

講習会日時：平成27年2月6日(金)

場所：奈良県社会福祉総合センター

受付：平成26年12月8日～27年1月30日

定員：200名(定員に達し次第、締切ります。)

※詳しくはHP又は当センター本店(0742-27-8601) 審査課、中和支店(0745-21-5721)までお問い合わせください。

●平成26年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会(更新及び新規登録) CPD=3単位

開催日時 平成27年1月16日(金)

13:00～16:30(受付12:30～)

会場 奈良県文化会館 小ホール

定員 150名

申込期日 平成27年1月5日(月)まで

※平成26年度奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会はこの開催のみですのでご注意ください。

※詳細・申込は、チラシ(12月同封済)の用紙をご覧ください。

※会場へはできるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

●平成26年度一級・二級・木造建築士定期講習のご案内

CPD6単位

改正建築士法により、建築士事務所に所属するすべての建築士は、登録講習機関が行う建築士定期講習を3年以内ごとに受講しなければなりません。平成23年度(平成23年4月1日～平成24年3月31日)に受講・修了された方は、平成26年度中に開催する建築士定期講習を受講しなければなりません。

平成26年度最終(第4期)の定期講習会ですので未受講の方は受講いただきますようご案内申し上げます。

講習会日時 平成27年2月25日(水)

場所 春日野荘

定員 60名(先着順)

受付期間 12月1日(月)～12月17日(水)

※詳細は(一社)奈良県建築士会 事務局へお問い合わせ下さい。

T E L : 0742-30-3111

●平成27年名刺交換会のご案内

当士会では、新年を迎えるにあたり、会員が一堂に会し一年の抱負を語りあうことを目的とした恒例の新年名刺交換会を開催致します。是非ご参加ください。

1 開催日時 平成27年1月14日(水)

17:00～(受付16:30より)

2 開催場所 奈良ホテル「大和の間」

(奈良市高畑町1096)

3 参加費 10,000円(当日受付にて)

※申し込みは、12月19日(金)で締め切らせていただきました。

—【注意】—

●平成27年度一級・二級・木造建築士定期講習についてのお知らせ

平成27年度は主催が(一社)奈良県建築士事務所協会に変わります。平成27年度の定期講習につきましては、(一社)奈良県建築士事務所協会が受付を行います。

日程予定【第1期】

講習会日時 平成27年6月3日(水)

場 所 奈良県産業会館(大和高田市)

定 員 100名

受付期間 4月上旬～下旬

※平成27年度の第2期以降の定期講習は日程、開催場所等がまだ未定です。詳細が決定次第、随時会報誌等でお知らせいたします。

※詳しくは(T E L)0742-34-8850までお問い合わせ下さい。

●お詫び

11月号に掲載(お知らせ)しましたユニバーサルデザイン講演会の参加費に誤りがございました。訂正しお詫び申し上げます。

誤 参加費 無料

→正 参加費用：建築士会員500円(資料費含む)

一般 700円(資料費含む)

新入会員のご紹介 『よろしく』

氏 名	支部	〒	住 所 (自宅)	勤 務 先
植 田 昌 克	桜井	633-0091	桜井市桜井400	(株)植田建物

編集後記

2015年あけましておめでとうございます。

本年も土会奈良のご愛読よろしくお願い申し上げます。

アベノミクスの是非を問う衆議院選挙が行われ、本号を皆さんが目にするころ既に次の政府が動いていると思いますが、突然の感もあった選挙にさらにせわしい年末となりました。約700億の事務費を要するという総選挙、ある種の経済効果みたいなものもあったのでしょうか？とにかく立法院である内閣、議会は機敏に機動してほしいと思います。

法といえばここ数年建築に関する法律等も多く変わり、昨年も建築基準法・建築土法の改正

が行われました。私たちが設計の仕事をする際に遵守すべき基本となる法律の変化に的確に対応しないと、業務の基幹に大きな影響がでます。皆さんホームページの閲覧や各種講習会などへの参加で対応はされていると思いますが、費用が掛かる場合もあり仕事を維持していく難しさを感じます。

未年の今年は静かに皆で今を見つめ将来を考える年。自分たちの創造性を失わず建築に必要な機能やコスト管理を行い設計する、難しいがやりがいのある仕事を今年も頑張って進めましょう。

(記：福本保治)

Calendar

2015年1月

- 1(木)  元旦
5(月) 仕事始め(事務局)
12(月)  成人の日
14(水) 新年名刺交換会(奈良ホテル)
16(金) 奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会(奈良県文化会館)
17(土) 近畿建築士会協議会青年部会和歌山会議
18(日) 奈良県地域文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第5回)
24(土) 1、2級及び木造建築士合格者祝賀会
28(水) 住宅無料相談会(奈良県建築士会館)
31(土) 近畿建築祭(兵庫大会)
(神戸市産業振興センター)

Calendar

2015年2月

- 11(水)  建国記念の日
22(日) 奈良県地域文化財建造物専門家スキルアップ講習会(第6回)
25(水) 平成26年度第4期定期講習(春日野荘)住宅相談会(奈良県建築士会館)
28(土) 青年委員会
奈良の森と木と家のフェスタ
(橿原イオンモール) 3/1まで

土 会 奈 良

通巻599号

平成27年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館
電話 0742-30-3111 FAX 0742-33-4333
<http://nara-kenchikushikai.or.jp/>
info@nara-kenchikushikai.or.jp

発行責任者 洲上 徳光
編集 (一社)奈良県建築士会 情報・広報委員会
印刷所 株式会社 明新社

平成25年度 1級建築士 設計製図試験



奈良県の合格者のおよそ6割は、
当学院の現役受講生でした。

奈良県
合格者
占有率

58.3%

奈良県合格者36名中、当学院現役受講生21名



平成25年度 2級建築士 設計製図試験

奈良県の合格者の
およそ2人に1人は、
当学院の現役受講生でした。

奈良県 合格者占有率

奈良県合格者61名中、
当学院現役受講生29名

47.5%

平成25年度 宅建本試験

当学院基準達成
現役受講生
合格率

82.9%

8割出席・8割宿題提出・公開統一模試得点率8割以上
現役受講生 252名中合格者 209名

当学院基準達成
現役受講生
合格率

95.2%

8割出席・8割宿題提出
現役受講生 230名中、合格者 219名

当学院
現役受講生
合格者数

956名

※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

無料 体験入学会・講座説明会実施中!!

実績が証明した、当学院講座品質。ぜひ、体験してください。

1級・2級 建築士

1級・2級 建築施工管理技士

構造設計1級建築士

1級・2級 土木施工管理技士

宅地建物取引主任者

インテリアコーディネーター



総合資格学院

講座に関するお問合せ・資料請求はコチラまでお気軽に!

奈良校・橿原校

〒631-0822 奈良県奈良市西大寺栄町3-27 泉谷ビル 4F

TEL.0742-30-1511

www.shikaku.co.jp 総合資格

検索